

森の自由人 123

狸泥舟

AI のもたらす余裕はだれのもの

AI なる便利なもの、その効用は様々あるようだ。私のような完全に時代からはみだした老人には理解不能だが、とりあえず文章を書いたり、プレゼンを作ったりしてくれて、労働に余裕をもたらすらしい。それはたいへん素晴らしいことなのだが、その余裕はいったい誰のものになるのだろう。

私としては労働者のものにしてもらいたい、当然使用者は会社が提供する機器を使って産み出された余裕だから会社のものと主張するだろう。そして余剰となった勤務時間内でさらなる労働を労働者に課してくるに違いない。まあ AI を使いこなすという労働者の能力も適正に評価されなければならないだろうから、AI の普及によって勤務時間の短縮等が図られることが望ましいのだが。

私の専門分野である森林・林業で絶滅寸前となった林業労働者を確保するために、その労働内容に応じた他産業よりも高額な収入や給与の実現を目指が求められていた。しかし、最近それが不可能だとしっかり認識すべきだと思うようになった。それでは高額な給与に代わって何を求めるべきか。

日本社会の大勢を占める都市住民の感覚でいると、高収入でセレブな生活にあこがれるのだろうが、それは一面的な価値観で視野狭窄に過ぎない。山村にあって自然の中で自給自足的な—そこまでストイックでなくてもよいが—生活をおくる方が、どれだけ楽しいかわからない、という人もいる。それが価値観というもので、視野が広がる教育をしてこなかったせいで、金儲けや高収入を求める輩ばかりになってしまった。できもしない公約をかかげる政治家が最も悪い。

「衣食足って礼節を知る」

とくに礼節をわきまえるぐらいの衣食は足りているのだから、高望みをしないで、金でない楽しい夢を求められる世の中にしなければいけない。

魅力は高収入ではなく、自然の中で存分に汗をかいて、美味しい空気を吸って、心地よい疲れを感じる—ことだ—と思いなおした。まあ居直ったのである。林業労働とは、ある程度の金銭的欲求とこうした精神的な満足の欲求を両輪としなければ、不可能である。

この人の世の動き、林業だけではなく利益追求ばかりでいったいどこへ向かおうとしているのか。

労働とは金銭的対価を得るためにやるものだ—と信じ込んでいたので、思考が硬直していたのである。確かに生活するには労働して収入をあげる必要があるが、馬鹿みたいに青天井で高収入でありさえすればいいというものでもない。その人その人に適した好きな仕事で

あれば、収入を犠牲にしても満足だろう。これは林業だけでなく、あらゆる分野について同じことが言える。

であるなら、使用者側も無暗に効率よく企業利益をあげようなどと必死にならずに、もっと適当にやればいいのか。成長、成長と言わないと、票が取れない政治家、いつも不況に怯える企業家たちの大合唱に、われわれ一般国民まで成長成長と不和雷同する必要はないのだ。

そもそも AI に任せている仕事など、人間自身が作り上げた複雑な制度や仕組みを切り抜けるためのもので、仕事の本質とかかわりなく、本来やる必要のない仕事なのではないか。だったら、そんな仕事はなくしてしまえばいいのだ。

複雑な流通を円滑にするためや、医療についてなど本来 AI の活用が必要とされる分野は別として。しかし、そんなに AI が役立つものなら、今すぐウクライナ戦争とガザ戦争を停戦してもらいたい。そんなことすらできない、逆に戦争に加担する技術にはこよなく役立つ AI であるようだ。何じゃこれ？おれはこんなもの絶対信用しないぞ!!

とにかく AI が生み出した余裕を労働者に返してほしい。勤務時間の短縮でも、育児休暇の拡大でも何でもいい。果てのない経済成長やろくでもない戦争に注ぎこむのは止めにし、もっと楽しく生活できることに還元して欲しい。

またしても追悼

先日の石塚森吉に次いで、いや先んじて染谷敬二（旧姓倉津）が亡くなっていた。森吉にさかのぼること約 2 か月、4 月 30 日のことだった。東京教育大農学部林学科の理水砂防研究室を出てから、㈱国土防災に入社して治山工事の設計業務をしていたが、独立してフリーの技術者として内外の防災施設の設計業務で活躍していた。

典型的な薩摩兵児（さつまへこ）である。小柄だが体躯頑健、言語朴訥、独立不羈^き、示現流の使い手で、幕末明治の薩摩人の面影を彷彿とさせる小西郷だった。そんな剛毅さとは裏腹に、縮れた短い頭髪を左手でちょっとつまみながら、照れくさそうに破顔するその愛嬌たるや、ふだんのイメージとの落差が大き過ぎる。

一匹オオカミの治山技術者として一家言あった。国をはじめ組織に属する技術者たちの軟弱さに憤り、まったく忖度せずになげな意見と言った。大学時代に見初めた美人で自慢の奥さんには残念なことに早く先立たれたが、弱った風は見せなかった。

学生の時、倉津と森吉と私の 3 人で屋久島へ行った。林学を志すなら、縄文杉は拝んでおきたい。3 月末とはいえ屋久島は九州一の高山である。ツェルト（簡易テント）1 つで、ウィルソン株（屋久杉の大伐根）の前と頂上近くで 2 泊野営した。頂上近くでは雪に降られ、結構無謀な登山だった。森吉が大量の羊歯を前に喜悅しているのを見て、倉津が呆れている構図が忘れられない。おれ 1 人残しやがって、おまえらの分も生きてやるからな。

倉津は、妙円寺詣りの歌というのを教えてくれた。関ヶ原の戦いで西軍についた島津義弘が、敗れたものの意表を突いた敵中突破で鹿児島に帰還した故事を讃えた民謡的な歌だ。子

どもたちが 10 月に島津義弘の菩提寺である妙円寺にお詣りする時に歌うらしい。甲冑具足のいで立ちで、22 番まである歌詞を繰り返し歌いながら、行軍するだ。その 21 番、

ゝ興亡すべて夢なれど

敵に^{そびら}背を見せざりし

壮烈無比の薩摩武士

^{ほまれ}譽は^と永久に^お匂うなり

倉津は望んで、鹿児島県阿久根市の実家の墓に眠っているそうだ。

あっぱれ薩摩兵児の生涯だった。



妙円寺詣り 鹿児島県日置市の HP より ええ大人がやってるねえ？